

大磯のよかまアちへ

大磯町災害救援ボランティアの会

令和 7 年 防災講演会

～能登半島震災から一年・大磯の地形は？～

令和 6 年は関東大震災から 100 年、今年は阪神大震災から 30 年、そして能登半島地震から 1 年が経ちました。

災害があるごとに防災意識が高まりますが、しばらくすると忘れてしまうのも世の常です。大磯町災害救援ボランティアの会では、防災意識を持ち続けていられるように活動を行います。

2 月 15 日（土）に大磯町立福祉センター・さざれ石において、地質学者の笠間友博氏を講師にお迎えして



防災講演会を行いました。

講演では大磯町のことを語る前に日本の地形の成り立ちについて話してくださいました。関東地域は昔、多くは海で湘南平も元は海の底でした。大磯丘陵や千葉房総半島は、一万数千年の時をかけ、巨大地震のたびに段々持ち上がり、隆起した境に断層が出来たそうです。そして、現在どの断層が危険かを話してくださいました。

日本で一番危険ではないかと思われたのは、神津―松田断層帯です。もしそこで地震が起きた場合、断層から直角に津波が起きるので、大磯では到達は早いが高さはさほどでもなく、鎌倉市や真鶴半島方面の被害が大きくなるということです。

地震が発生した時、震源

地やその場の条件などさまざままで被害が違います。断層と津波の動きを知ってみると被害予測が容易になります。

闇雲に恐れおののくのではなく断層の長さや地震の大きさとの関係など地質学を学ぶと、「地震は怖い」という漠然とした不安を少なくできることが分かりました。

本や講義だけでは学べないフィールドワークに長けた笠間講師のお話は、色々なエピソード満載で、予定



時間があつという間に過ぎてしまいました。

内容は広範囲に及び、日本列島が大陸から分離するお話までありましたので、機会がありましたら大磯町内の地域別などもっと踏み込んだ内容もお聞きしたいと思いました。

この地球上に暮らしている限り、天災にあうことは避けられません。「いかに被害を最小限に出来るか？」を考え、準備して行動を起こしていきたいものです。

（川崎）

大磯の地形を歩く

箱根ジオパーク事務局専門員
笠間友博

② 浮世絵の大磯 ～北斎が描く石～

否定できませんが、大磯に産地を求めるならば、旧吉田邸下付近の海岸に台風の大波などで打ち上げられた大磯層の軽石質凝灰岩（シンドーサキの石）の岩塊が考えられます。似た石は高来神社にあります（図2）。下の石垣の石材は六角形もありますが、不定形が多いです。色からは真鶴産などの安山岩が考えられますが、形状は駅前旧岩崎邸の石垣に使用されている高麗寺の石（高麗山をつくる高麗山層群の凝灰岩、図3）によく似ています。字が黒いのは、定期的に墨入れをしていたのでしょう。

浮世絵は写真画ではありませんし、実際に現場でスケッチをしてインスピレーションを膨らませた作品なのかを含めて疑問はあります。しかし他に資料がないので絵を信じ当時の大磯を想像してみたいと思います。図1は葛飾北斎が描いた東海道五十三次大磯の1つで、制作年代的には歌川広重の作品より若干古い大磯の姿です。「とら子石」とある大きな石碑は、当時の東海道大磯宿の延台寺付近にあったと考えられます。延台寺付近の東海道は、大磯駅から港に向かって3段ある海岸段丘の中段である事は以前に書きましたが、石碑の背後の竹林のような茂みは1段低い所にあり、北下町のある下段の海岸段丘のように見えます。一方、大きな石碑は上部が丸みを帯びているので、切り出された石ではなく、海や川にあった天然石である事が判ります。この石には板状の構造があり、地層の堆積構造のようにも見えます。遠方から巨大な石を運び込んだ可能性も

図1 葛飾北斎「東海道五十三次 大磯」
（シカゴ美術館所蔵）

図2 高来神社の石碑（海岸にあったので、穿孔員が穴を開けた跡が見られます）

図3 シンドーサキの石の採石場跡
2019年10月13日撮影 大波で露出

新年度のご挨拶 ———— 大磯町災害救援ボランティアの会 会長 伊藤勇

大磯町災害救援ボランティアの会（2008年3月31日発足）は創設18年目を会員皆様の協力により迎える事が出来ました。当会は各地区の防災に関心を持つ仲間と災害・防災・減災の知識を学び、各地域への普及啓蒙活動に勤めております。

阪神淡路大震災から30年になりますが、生き埋めになった人は約3万5000人。そのうちの約8割が家族や近隣住民などに助け出されていて、消防などのいわゆる「公助」による救出は2割でした。近隣の繋がり、家族の繋がりが如何に重要であるかがわかります。また、この災害を機にボランティア活動が全国的に広がりました。

東日本大震災においては私自身もボランティアとして赴き、被災地の悲惨な状況を確認する事で我が町での防災対策について考えました。また能登半島震災被災地に赴いた会員の報告会では、幹線道路の寸断や住民の高齢化によって復旧作業が遅れていると聞きました。住民相互の繋がりが防災・復旧作業には必要不可欠です。随時会員募集を行っておりますので、自分・家族・地域の為に是非とも我々の会に参加して一緒に活動しましょう！

「防災カフェ」
開催しませんか？

ペットと避難所に行ける？

高齢の親の事が心配

仕事場が遠くて子供の所へ
駆けつけられないかも……防災活動や
備蓄に取り組みたい

日頃の疑問や不安を話したり、その解決方法を皆さんと探りましょう。ご相談をお待ちしております。

大磯町災害救援ボランティアの会は、地域の安全・安心を第一優先として災害時への備えを考えている団体です。一緒に活動していただける会員を募集しています。また、防災に関する情報や質問などがありましたらぜひお知らせください。（伊藤）

✉ itou1321@forest.ocn.ne.jp

☎ 090-3403-6443



『大磯のなかまたちへ』第28号

編集・発行 大磯町災害救援ボランティアの会
255-0003 大磯町大磯 1352-1
大磯町災害救援ボランティアの会事務局
大磯町社会福祉協議会
後援
発行日 2025年4月1日
発行部数 2,000部